

? 混乱するドイツの音楽家支援策 ?

ドイツ在住のテノール歌手玉田仁志さんが自身の4/6付ブログで、ドイツにおけるフリーランス音楽家(以下フリーランス)への経済的支援が不公平になっていると嘆いています。日本ではまったく対応できていないフリーランス支援策ですが、芸術先進国ドイツも現実的には厳しい状況にあるようです。以下にブログの内容を要約します。

ドイツ政府は、3週間前、芸術文化なくしてはドイツの経済は成り立たない、職を失った芸術家に経済的支援を施すと明言。しかし、その公約はほぼ全く果たされていない。日本では、ドイツではフリーランス全員に現金が支給されているように報道されているが、そうではない。

ドイツの経済支援策は州単位で行われる。ノルトラインヴェストファーレンNRW州(ケルン、デュッセルドルフ、ボンなど)ではフリーランスの芸術家に対して1人当たり2,000€(約236,000円)を支給すると決めた。ほぼ同時にベルリンでは5,000€が支給されることとなったが、オンラインの申し込みに殺到したためアクセスできない人が続出。

ベルリンで申し込みできた人には、早々と口座に振り込まれた。ところがNRW州では玉田さんの周囲に現金が振り込まれた人はまだいない。

NRW州とベルリンの支援金は、芸術家の「生活費の補填」が目的とホームページに明記されていた。しかし他の州の支援プログラムはかなりちがっていた。玉田さんの住むバーデンヴュルテンベルク州では、芸術家に限らず条件を満たす個人事業主に対し、事業規模に応じて9,000~30,000€が支給される。

但し、事業で3ヶ月間における「債務不履行分」に対しての支給で「生活費の補填」ではない。即ち、必要経費が3ヶ月で9,000€以上となり、それが払えない個人事業主のみが対象。従って、個人で音楽教室を経営し教室の賃料・光熱費・楽器の維持費等に毎月3,000€以上支払っていれば対象になるが、そんな人は知り合いのフリーランスにはほとんどいないという。ということでフリーランスは、この支援プログラムの恩恵にほとんど預かっていないのです。

「NRW州やベルリンでは現金が貰えるのに、他の州の芸術家は野垂れ死にさせるだなんて、何がSolidaritätだ！」(Solidarität=「連帯感・仲間意識」とは、コロナ危機を乗り越えるためによく見かけるスローガン)

そして遂にあらうことか、ベルリンの支援金申し込みサイトから「支援金が生費の補填を目的とする」という肝心の記載がいつのまにか消えてしまった。結局NRW州では、支援金申し込み受付を停止し「生活費の補填目的での支援は中止する」となってしまった。いずれも、他の州のフリーランスからの抗議により、バランスをとったためらしい。NRW州やベルリンでも、現金を貰えた人もいれば貰えなかった人もいるという、不公平が生じてしまった。

現時点で、ひと月の経費が3,000€未滿かつ経済的困難にあるフリーランスの拠り所はHartz IVのみとなった。Hartz IVとは日本でいう生活保護である。ドイツにしてからがこんな状況なのです。

石川県でも緊急事態宣言出される

石川県立金沢二水高等学校音楽科教諭 外 泰子

『おんがく広場』…とともわかりやすく、ZoomやLINEグループ通話でのチャレンジが掲載されており、生徒に提示するのに助かりました。

3/24午後から条件付きで部活動が許可されていましたが、県内の感染者数がどんどん増え、4/3に市内路線バス運転手の複数感染がわかり、4/6-7と自粛となり、その後4/9から5/6までの休校が決められました。そして4/13、**独自の緊急事態宣言が発動**されました。現在は登校も部活動も禁止されています。

子どもたちの気持ちをつなげなくては…と、リーダーグループ、各パートのグループでLINEグループ通話によるミーティングを週一回行うことを、心の絆として現在活動しています。

おそらく今年のコンクールは開催が難しいと察します。三年生の気持ちを考えると胸が痛みますが命を守るため、子どもたちをサポートしていく覚悟です。Nコン課題曲のYouTube等をリーダーのLINEに貼り付け、さらにリーダーから各パートへと下ろす…リーダーが育つ良い機会ととらえたいです。いろんな方々の実践はとても参考になります。またぜひ情報を流して下さい。子どもたちとシェアしながら、頑張りたいと思います！

※石川県立金沢二水高校は、昭和23年設立の県立金沢第二高校が前身。昭和33年に創立の地である金沢市穴水町から現在の緑が丘へ移り、今年創立72年目。文武両道を実践し、逞しく生きる生徒の育成を目指している。